

磯子区自治会町内会

活動紹介

磯子区の魅力は、多くの地域の皆さんによって、育まれています。
家族みんなで楽しめる地域の催し、住みやすいきれいなまちづくり、
ほっと集える場所の存在、いざという時の助け合い…。
それらの中心に、自治会町内会の活動があります。

健民祭



各種団体
からの情報の
回覧や掲示

文化祭

地域清掃



防災訓練



夏祭り



高齢者の
見守り

資源集団
回収

高齢者
ふれあい
昼食会

など

防犯
パトロール



磯子区の自治会町内会は、9つの地区に分かれて“地区連合町内会”を結成し、さまざまな活動を行っています。

- 根岸地区
- 屏風ヶ浦地区
- 滝頭地区
- 杉田地区
- 岡村地区
- 上笹下地区
- 磯子地区
- 洋光台地区
- 汐見台地区

新型コロナウイルス感染症が広がってからは、それぞれの地区連合町内会が、人が集まる催しを中止したり、情報共有のための会議を開催できなかつたりと、活動に大きな影響を受けました。

それでも、地域に住む人々のため、住みよい磯子のまちづくりのため、工夫を凝らして活動を再開し始めています。

この活動紹介では、そんな磯子の地区連合町内会の活動や、活動を支える人々を紹介しています。



磯子区キャラクター「いそび」

あなたは、自治会町内会に入っていますか？

「自分が住んでいる地区の自治会町内会は、どんなところなんだろう」

「自治会町内会に入りたいけど、どうしたら…」

そんな方は、ぜひご連絡いただくか、ホームページをご覧ください。



問合せ先

磯子区連合町内会長会事務局

TEL:045-750-2391 FAX:045-750-2534

磯子区連合町内会長会 検索



根岸 ねぎし 地区連合町内会



根岸地区ってこんなところ

根岸地区は、堀割川と斜面の緑地に縁取られ、そのふもとに神社、仏閣が点在した落ち着いた地域です。JR根岸線を挟んだ海側にはENEOS株式会社の根岸製油所が見え、工業地帯の風を感じられるほか、根岸なつかし公園旧柳下邸などの見どころもあります。

古くからの住民、根岸駅前等に建築された新しい集合住宅の住民など、様々な人が暮らす、水と緑と歴史が生きる町です。



根岸なつかし公園 旧柳下邸

根岸地区連合町内会からのメッセージ

今年度も残念ながら、新型コロナウイルス感染症により予定していた事業・行事の中止や縮小が続きました。

そんな中でも、「コロナ禍でも大規模災害は起こり得る。」との考えから、『根岸地区合同防災訓練』を大幅な人数制限を行い開催し、新しく防災拠点に配備された「ダンボールベッド」の組立て体験や各種備蓄資機材の動作確認をすることができました。

また、1月にはコロナの感染拡大が小康状態になったので『磯子七福神巡り』も何とか開催でき、大きな行事としてはこの2件の開催となりました。

来年度こそは感染症も落ち着き、地域を挙げての楽しい各種行事が開催出来ればと思っています。

開催の際には多くの皆様のご参加をお待ちしています。



感染症対策を行いながら、毎月の定例会で情報共有をしています。



根岸地区の連長にインタビュー! 地域活動の魅力とは

「根岸で生まれ育ち、家業を継いでずっと地域の中でやってきた」。最初は消防団に入団したことがきっかけとなり、中学校のPTA会長を務めるなど、それ以来地域と密接に関わっている。

「根岸地区は『堀割川』『急斜面』『狭あい地区』を抱え、防災に対してとても熱心。小学校、中学校とも連携し、合同で訓練を行う。何かあればすぐ動けるような関係性が日頃からできている。根岸地区は小学校、中学校が1校ずつで、根岸中の3年生は根岸小9年生のような感覚でいる。狭いからこそ、卒業した後、大人になっても結びつきが強い」と話す。

地域の活動では、せっかく自分の大切な時間を使うのだから、何か一つでも“楽しかった”“良かった”と思えるように心がけてきたという。今は組織を引っ張る側として、活動する人がそのように思ってもらえるように意識している。



根岸地区連合町内会会長
よこた ひであき
横田 秀昭氏

地域活動のきっかけ

結婚したときに当時の町内会長から言われて消防団に入ったこと。以降、令和2年3月に退団するまで44年間、消防団員として活動してきた。

(広報よこはま磯子区版 令和3年6月号より編集)



根岸^{ねぎし}地区連合町内会

令和3年度の活動

例年行っていたイベントの多くは、新型コロナウイルス感染症のため、残念ながら実施できませんでした。それでも、「コロナでも災害は起こり得る」との考えから、地区合同の防災訓練を10月に行い、地区の防災意識を高めました。

根岸地区総合防災訓練



令和3年10月24日(日) 根岸地区総合防災訓練 根岸中学校にて

磯子七福神めぐり



令和4年1月9日(日) 磯子七福神めぐり

例年の活動

※令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により、中止したものがあります



健民祭



歩け歩け大会

滝頭 たきがしら 地区連合町内会



滝頭地区ってこんなところ

滝頭地区は、磯子区の北に位置し、北西は南区、東は清々たる水をいづく堀割川に守られています。

根岸橋通り商和会、四間道路に沿った岩瀬商店街・岡村共栄会など歴史のある商店街や、市電保存館などのスポット、公共施設などが集まっています。下町情緒を残した、人情味あふれる住みよい地域です。



滝頭の風景

滝頭地区連合町内会からのメッセージ

滝頭地区では、「人にやさしく滝頭」をスローガンに、支えあいを広げる活動に力を入れています。自治会町内会単位でも支え合い活動が行われており、地区のあたたかさにつながっています。様々な方が活動に携わっていますが、一方で固定化や高齢化による担い手不足も悩みです。



会議の様子

滝頭地区の連長にインタビュー！ 地域活動の魅力とは



滝頭地区連合町内会会長
おがわ ゆうじ
小川 祐司氏

地域活動のきっかけ

町内会長をしていた叔父に誘われ、体育指導委員（現在のスポーツ推進委員）・青少年指導員を引き受けたこと。ソフトボール大会に出場するため、体育指導委員として仲間とともに地域に声をかけ、チームを作ったことも。

大学まで南区に住んでいたが、元々父親の会社が滝頭にあり、就職を機に磯子区に住むようになった。

地域の印象的な出来事に、夏祭りを挙げる。以前、夏祭りでは簡単な盆踊りのみを実施し、おみこしは中止していた。そこに盆踊り用のステージを作り、模擬店を出すようになり、ずっと中止していたおみこしもやることになった。おみこしは、最初は子どもだけだったが、回を重ねるうちにだんだんと『大人もやろう』ということになった。そのようなきっかけが年々重なって、地域全体をまきこんだにぎやかなお祭りとなった。

「人とのふれあいは一番大切。高齢者だけ、子どもだけではなく、みんなが夢中になれるような行事があると、地域が一つにまとまる」と地域全体での活動の重要性を語る。

仕事をしながらの地域活動は大変なこともあるが、それでも続けているのは「人とのつながり」があるから。「さまざまな人との関係が広がり、輪になった結果」と笑う。

(広報よこはま磯子区版 令和3年6月号より編集)



滝頭 たきがしら 地区連合町内会

令和3年度の活動

今年度の健民祭は、コロナ禍でも安全に実施できるよう「滝頭地区ミニ健民祭」として、例年よりも小規模に、文化祭と親子ふれあいフェスタを行いました。また、地区社会福祉協議会で行っている、高齢者・障害者など食事作りの困難な方を対象とした「愛のお弁当」のお届けを再開しました。

滝頭地区ミニ健民祭(会場:滝頭小学校)



文化祭



親子ふれあいフェスタ



「愛のお弁当」作り



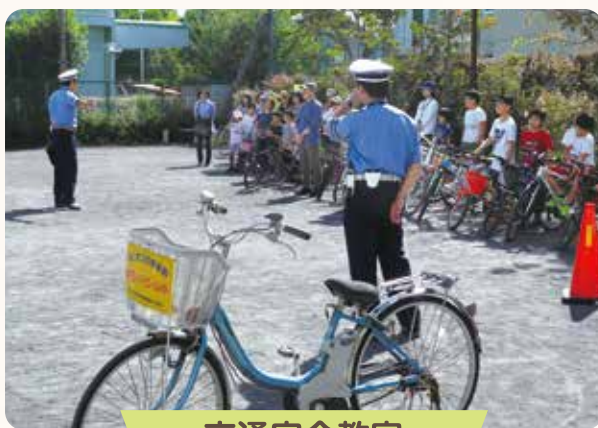
防災訓練

例年の活動

※令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により、中止したものがあります



お餅つき大会



交通安全教室

岡村 おかむら 地区連合町内会



岡村地区ってこんなところ

岡村地区は、南区、港南区に接する町で起伏に富み、岡村公園、隣接する久良岐公園などの大規模な公園や、三殿台遺跡、岡村天満宮などが所在しており、歴史的・文化的にも魅力ある地域です。

岡村地区では、長野県池田町と独自に姉妹町村として友好親善提携を締結しており、災害・有事の際に互いに支援を行うこととしています。

人もあたたかく、子育てや生活するのに大変良い町です。



三殿台遺跡



岡村天満宮

岡村地区連合町内会からのメッセージ

住んでいる地域で安心して暮らすため、地区全体で「絆」が繋がる活動に力を入れています。イベントによる「協力」、「集う」ことの必要性和大切さを定着させる活動を推進しています。



コスモスミーティング



和風作り

岡村地区の連長にインタビュー! 地域活動の魅力とは

生まれは南区だが、すぐに長野県へ。その後小学校1年生から現在地(磯子)に住むようになった。当時の磯子の海には浜が広がり、海水浴には岡村からは歩いていくのが普通であったという。

子どもが3人いたことで子ども会の行事には必ず参加していた。自治会に関わるようになってからは自治会行事の主催者側になったが、「恒例行事や新たな行事に地域の高齢者の持っている技術を生かすことはもちろん、各方面の人とのつながりを活用して必要な人材を集めることができるのも地域での仲間づくりのおかげ」と地域活動の魅力を語る。

感染症の影響でイベントを実施するのが難しくなっているが、「検討して少しでも可能なら知恵と工夫で実施していきたいのが本音。子どもたちから高齢者まで楽しく過ごせるよう地域一丸となって頑張っていきたい」と今後の抱負を語る。

地域活動のきっかけ

自治会役員の当番が回ってきたこと。2年任期だったが、引き受けているうちにそのまま地域の活動に関わるようになった。



岡村地区連合町内会会長
みやざわ あきら
宮澤 章氏

(広報よこはま磯子区版 令和3年9月号より編集)



岡村 おかむら 地区連合町内会

令和3年度の活動

新型コロナウイルス感染症に対応するため、ウェブ会議の開催準備・スケジュール調整機能の充実化等のICTの活用を行いました。地区文化祭、高齢者の集い、クリスマス会等の活動も、検温・消毒等の感染症対策を行いながら、実施しています。

健民祭



文化祭



クリスマス会



ICT活用講習会



例年の活動

※令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により、中止したものがあります



長野県池田町との「児童交流」



防災スマイリングフェア

磯子 いそご 地区連合町内会



磯子地区ってこんなところ

磯子地区は、前方は海、後方は山と高低差のある地形となっています。区役所や地域ケアプラザ、磯子センター、警察署、消防署などの行政機能のほか、地域に愛されている商店街の浜マーケットなどが所在しています。また、JR磯子駅近くには商業施設や都市型住宅が集まっています。住んでいる人々も人情味豊かで、温かみのある町です。



磯子地域ケアプラザから高台を望む



産業道路からは海沿いの工業地帯が

磯子地区連合町内会からのメッセージ

磯子地区では、「みんなが住みやすい町、磯子～あいざつと笑顔あふれるやさしい町～」をスローガンに、様々な支え合い活動が行われています。一人暮らしの高齢者や、障害のある方が参加する「ふれあい運動会」は、近年は新型コロナウイルスの影響で中止しましたが、磯子地区で25年以上続く代表的なイベントです。地区のイベントを大切に、これからも継続していきたいです。



ICT活動成果確認会



磯子地区の連長にインタビュー! 地域活動の魅力とは

山梨県出身。横浜に出て、横浜市交通局に勤務した。人と接することが好きで、人々の笑顔が地域活動のやりがいにつながっている。

「地域をよくするためには、地元の皆さんの協力がなければ成り立たない。これは行政だけではできない。小さなことであっても、地域の意見に耳を傾け、意見を吸い上げる。自分たちが住む町は自分たちで考えていかなくてはいけない」と語る。

磯子地区では磯子区で唯一、ふれあい運動会を実施している。障害者とその家族、一人暮らしの高齢者が参加する運動会で、スポーツ推進委員、青少年指導員、自治会町内会など多くの人の協力なしには開催できない。地域のつながりがあるからこそこのイベント。令和2年は実施できなかったが、「今後も続けていきたい」と話す。

ボランティア活動が元気の源となっている。まちづくりや地域活動を通じて、思いが形になることが、大きな喜びとなり、生きがいとなっている。「人のために少しでもなるなら、元気な間は続けたい」と笑う。



磯子地区連合町内会会長
ないとう よしお
内藤 吉夫氏

地域活動のきっかけ

もともと地域で人と接するのが好きで、老人会にも参加していた。定年直後に民生委員の誘いを受けたことがきっかけで地域に関わるようになった。

(広報よこはま磯子区版 令和3年6月号より編集)



令和3年度の活動

感染症の状況をにらみながら、クリスマス会や七福神巡りなどのレクリエーションを開催しました。6月に実施したコスモスミーティングでは、コロナにより影響を受けた地域活動の今後について、議論しました。

ふれあいサロン クリスマス会



大正琴のサークル「ハッピーブルーバード」による演奏



手品のパフォーマンス

コスモスミーティング



磯子七福神めぐり



例年の活動

※令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により、中止したものがあります



ふれあい運動会



地域防災拠点訓練

汐見台 しおみだい 自治会連合会



汐見台地区ってこんなところ

汐見台地区は、横浜南部、磯子区の丘の上に位置する、自然環境に恵まれた地域で、根岸湾埋立地に進出した企業の社宅を中心に開発された大規模な中層住宅団地です。昭和30年代後半に建設工事が開始されたこの団地は、緑と空間に大きな余裕を持たせた中層建物であり、ケーブルを地中化した電信柱の一本もない団地で、当時としては画期的な団地でした。地域内には、商店街や広場、病院、保育園、幼稚園、学校が揃っており、ひとつの町を形成しています。



さくらの丘
(汐見台3丁目)



霊峰富士
(汐見台3丁目)

汐見台自治会連合会からのメッセージ

汐見台自治会連合会は「魅力溢れるまち」「安全で安心なまち」「ずっと住み続けたいまち」を更に目指し、役員一同精進しています。

令和3年度には、地域の皆様からの要望を受け、誰もが「無料」で自由に利用できる居場所「みんなの広場」が12月にオープンしました。



定例会 (Zoomで参加も有)



役員紹介 (特別にマスクをとって撮影しました)



汐見台地区の連長にインタビュー! 地域活動の魅力とは

平成30年度から令和元年度まで磯子区連合町内会長会会長を務めた。当時、横浜市で唯一の女性の区連合町内会長。「組織にはもっと女性の力が必要」と話す。

仕事では著名人などの住宅のコーディネートを担当していた。仕事と地域活動の両立は大変なこともあったが、時間の使い方や意思決定の早さは働いていたときの経験が生きている。

コロナ禍で活動が制限される中、令和2年度は“万が一のとき、命を守ること”に重点を置いて活動してきた。救急医療情報キットを全世帯に配布し、災害時要援護者名簿の提供に関する協定を区役所と締結した。

「汐見台は本当に変わった。まちが良くなっていくのを見ることは何物にも代えがたい。人と会うこと、話すことは、自分の人生を豊かにしてくれる」と地域の活動の魅力を話す。



汐見台自治会連合会会長
おかみちこ
岡道子氏

地域活動のきっかけ

住んでいるマンションの役員決めでくじ引きを提案し、自ら「自治会長」職を引き当ててしまったこと。仕事の経験を生かし、組織の改革も積極的に行ってきた。

(広報よこはま磯子区版 令和3年6月号より編集)



汐見台 しおみだい 自治会連合会

令和3年度の活動

汐見台自治会連合会は常設委員会(地域環境委員会、コミュニケーション委員会、地域連絡協議委員会、子どもはぐみ委員会、行事委員会、IT委員会、防災・防犯委員会)と汐見台まちづくり委員会、スイッチON磯子汐見台地区推進委員会、汐見台地区社会福祉協議会で活動しています。コロナ禍でほとんどの行事予定は中止になりましたが、新しい取り組みとして「年末さわやかクリーンデー」「みんなの広場」が実現でき、地域活性化の一助となりました。

定期総会



新型コロナウイルス感染防止のため
「書面表決」で開催

高齢者向けスマホ講習会



ご夫婦で参加された方もあり大人気!

コスモスミーティング



三つのテーマ
①居場所づくり ②防災 ③子育て支援について意見交換

夜間歩き防犯パトロール



2年ぶりに1月から再開

救命・救急・救出法講習会 (スイッチON)



避難用具「救い帯」を使って
高層階からの要援護者の避難訓練

秋の浪漫ウォーキング (スイッチON)



「ハンマーヘッド」等を見学しながらウォーキング

みんなの広場

地域の皆様からの要望がついに実現!!
誰もが「無料」で自由に利用できる居場所「みんなの広場」がオープン



やんちゃクラブ

年末さわやかクリーンデー



地域一斉清掃活動を実施

屏風ヶ浦 びょうぶがうら 地区連合町内会



屏風ヶ浦地区ってこんなところ

海上から観える海蝕崖と丘陵地の青葉が醸し出す景観から、屏風ヶ浦と称された地です。

根岸湾埋め立て前は、海岸沿いの国道16号に路面電車が走り、海水浴場や別荘地として知られました。海水パンツで国道を横切り海に飛び込む姿が見られたそうです。

京浜急行線路海側の平地部は平安時代以前からの地縁・血縁者が多く住み、漁業・農林業と海運業・ノリ養殖を営んでいました。近年の拡大発展期に共同住宅が建ち並んだ16号線海側と、宅地化された斜面と丘陵地地区から成っています。



磯子駅前の集合住宅



白旗商店街

屏風ヶ浦地区連合町内会からのメッセージ

屏風ヶ浦地区連合町内会は、21町内会自治会で成り立っています。根岸湾埋め立て工事で失った海の代償に設けられた、森町公園多目的集会所で定例集会を催しています。

行政からの情報を各地域会長に素早く伝えるため、ICT（情報通信技術）の活用を進めています。

自治会町内会の担い手は高齢化が進んでいます。ICTに習熟した方や、若い方のお力添えを願っています。



換気しながら会議です



広報編集スタッフ会のメンバーです



屏風ヶ浦地区の連長にインタビュー！ 地域活動の魅力とは

新潟県出身。勤務地であった東京に出るため、JRと京急の2路線を利用できる利便性から磯子区に居を構えた。仕事では、エンジニアリング会社の技術者として世界各国を、転職後の工事施工管理の会社では日本各地を回った。仕事をしている間は地域活動には参加できなかったが、退職後、関わるようになった。

自治会の活動では災害対策にも力を入れ、備蓄の見直しや耐震改修、集会所へのインターネット導入も行った。「居住するマンションの大規模修繕や耐震改修では仕事の経験が役立っている」と話す。

会社員時代からパソコンを長く利用してきたため地域活動においても積極的にICT^(※)を活用しているが、多くの高齢者にとっては扱いづらく、活用が進まないという問題もある。「若い世代にも積極的に関わってもらえたら嬉しい。それぞれの得意分野を地域に生かすことで、より住みよいまちになる」と笑う。

※情報通信技術



屏風ヶ浦地区連合町内会会長
とよま ひでとし
遠山 秀俊氏

地域活動のきっかけ

新築当初から居住しているマンションの管理組合の理事になったこと。管理組合の理事がそのまま自治会の役員を務めることになっており、自治会の活動に関わるようになった。

(広報よこはま磯子区版 令和3年8月号より編集)



令和3年度の活動

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症を注視しながらの活動となりました。

コロナ禍でも地域のためにできることを進めようと、防犯パトロールの継続や、感染リスクの高い高齢世帯へのマスク配布、感染症に配慮しながらのレクリエーション企画などを行いました。



防犯パトロール



高齢世帯へのマスク配布



地区の七夕飾り



地域探訪レクリエーション
(岡村地区の三殿台遺跡へ)

例年の活動

※令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により、中止したものがります



健民祭



納涼祭

杉田 すぎた 地区連合町内会



杉田地区ってこんなところ

杉田地区は、「古くて新しい、そして静から動へ進化する町」です。杉田八幡宮や妙法寺、「永仁の鐘」ほか重要な文化財を有している東漸寺など、由緒ある歴史遺産が点在している一方、京急杉田駅、JR新杉田駅付近は商店街が位置するなど、商業・文化の拠点となっています。お祭りなどの地域行事には世代を問わず多くの人が参加する、あたたかく、にぎわいのある町です。



東漸寺



ぷらむろーど杉田

杉田地区連合町内会からのメッセージ

にぎわいのある商店街・商業施設が所在する杉田地区ですが、丘の上の住宅地では近くに店が少ないことなどにより「買い物に困難」との声が上がっていたため、令和元年度から、杉田地区連合町内会、新杉田地域ケアプラザ、磯子区社会福祉協議会、区役所と課題解決に向けて話し合いと調査を進めてきました。令和元年6月には、杉田地区社会福祉協議会の組織として「杉田地区買い物支援倶楽部」を立ち上げ、セブンイレブン横浜杉田3丁目店の誘致及び令和2年10月から移動販売を開始しました。現在では、6か所で行っています。



地区連合町内会のメンバーです
(マスクをとって撮影しました)



令和元年度の健民祭

杉田地区の連長にインタビュー! 地域活動の魅力とは

「素晴らしい杉田の町との出会いが私の人生を変えた」と地元・杉田の良さを語る。少年野球の監督をしていたことがきっかけとなり、子ども会の立ち上げや町内会の活動に関わるようになった。

「杉田は人との接点があたたかい」。杉田地区にある杉田東部町内会には【支えあい会】という組織があり、町内会、各種委嘱委員、子ども会などが参加して活動をしている。これまではそれぞれの活動の中で終わっていたが、支えあい会で情報を共有することで、より広い視点での地域づくりにつながっている。支えあい会をはじめ、「地域の活動は、人が変わっても続いていくよう組織化することが重要。組織化することを通じて、将来に向けて方向性をつけていく」。

近年は地域活動の担い手不足という問題もあるが、「町内会の楽しさ、素晴らしさ、人間関係の良さを少しでも味わってくれば、組織も継続していけるのでは」と話す。

地域活動のきっかけ

30代のころから少年野球の監督を通じて子どもとの関わりがあったこと。少年野球の監督を現在も続けていて、46年目となる。磯子区スポーツ協会会長・磯子区少年野球連盟(学童部)会長も務める。



杉田地区連合町内会会長
すだ ゆきお
須田 幸雄氏

(広報よこはま磯子区版 令和3年6月号より編集)



杉田 すぎた 地区連合町内会

令和3年度の活動

令和2年度・3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、夏祭りなどの人が集まるイベントの開催を控えてきました。一方、体操・講座などを行う「元気づくりステーション活動」や、買い物がつらい地区にお住まいの方のための「移動販売」、自治会町内会のICT活用のため講習会の実施などの個々の活動を、行政機関とも連携しながら進めています。

元気づくりステーション活動



移動販売



実施に向けた
会議の様子



ICT活用講習会



コスモスミーティング



例年の活動 ※令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により、中止したものがあります



夏祭り



餅つき大会

上笹下 かみささげ 連合自治町内会



上笹下地区ってこんなところ

上笹下地区は、緑の10大拠点(横浜市郊外部に連なる10か所の大規模な緑地)の一つである円海山の緑や、大岡川の清流など、恵まれた自然環境があり、区内では珍しくなった蛍の観察が出来るなど、磯子区のなかでもとっておきの区民の憩いの地域を有しています。

平成19年3月、磯子区で初めての「認定市民菜園」も誕生し、この貴重な自然とともに生きる町となっています。



水取沢市民の森



農業専用地区

上笹下連合自治町内会からのメッセージ

上笹下地区では、「自然とともにつながりのあるまち上笹下」をスローガンに、地区の魅力の再発見や、継続した関係づくり・支え合いに取り組んでいます。恵まれた自然環境を活かした活動の継続や、各自治会町内会により守られている地域のきずなを大切にしています。



上笹下地区の連長にインタビュー! 地域活動の魅力とは

生まれも育ちも上中里(上笹下地区)。緑豊かな上中里で農業を営む。親も町内会などの地域活動に参加しており、地域活動が身近なものだった。

地域活動では高齢者も子どもも分け隔てなく気配りすることを心掛ける。「地域での関係ができていると、気軽な話し合いから、困りごとを地域ケアプラザや民生委員・児童委員につないだりすることができる」と顔の見える関係の大切さを語る。

上笹下地区の上中里町内会での特徴的な取組みとして、「上笹下ボランティア」がある。月1回、手作り弁当を作り、食事会を開催している。自ら育てた野菜を提供することもあるという。コロナ禍で現在は食事会が実施できていないが、参加者からは「あのお弁当が早く食べたい」という声も聞かれる。今は弁当とマスクをセットにして訪問することで、安否確認をしながら、工夫して実施している。

令和2年は会合やイベントなどが実施できず、歯がゆい思いだった。「地域はイベントを通じてぐっと距離が近くなる。まだ先の見えない状況は続いているが、今年はやりたいね」と思いを語る。

地域活動のきっかけ

親や地域の先輩の活動をずっと見ていたため、「自分も携われたら」という思いがあった。農業を継ぐ中で、自然と地域の活動にも関わるようになった。保健活動推進員としても活動していた。



上笹下連合自治町内会会長
たなべみのる
田邊 実氏

(広報よこはま磯子区版 令和3年6月号より編集)



上笹下 かみささげ 連合自治町内会

令和3年度の活動

例年は子育て世代で大にぎわいのサツマイモ収穫祭も、今年度は規模を縮小し、一般参加者なしで実施しました。子どもたちが無心で楽しめるようになるまで、もう少しの辛抱かと思います。コスモスミーティングでは、「コロナ禍の状況下においての高齢者の見守りについて」をテーマに意見交換しました。

サツマイモの苗植え付け・収穫祭



1300本を植え付けました



今年度は地区のメンバーで収穫



コスモスミーティング



買い物支援移動販売



高齢になると買い物に困難との声で、行政機関と協議し、毎週金曜日に地元コンビニの移動販売車を稼働

ICT活用講習会(スマホの使い方講座)



例年の活動

※令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により、中止したものがります



健民祭



みんなでイキイキ体操

洋光台 ようこうだい 連合自治町内会



洋光台地区ってこんなところ

洋光台地区は、昭和40年代に円海山の麓の丘陵地帯を開発した、美しい街並みと良好な住環境を形成している地域です。地区内には、4つの大きな公園とはまぎんこども宇宙科学館などがあり、洋光台駅前が地域の中心となっています。

また、犯罪発生抑止のために「洋光台防犯活動本部」を開設し、安全・快適に生活できる町となっています。



空から見た洋光台

(株)PANDO提供

洋光台連合自治町内会からのメッセージ

洋光台の街が生まれて50年、緑豊かで落ち着いた街並みを有する良好な住宅地です。「笑顔の行き交う洋光台」、「将来の洋光台のあるべき姿」を目標として、活動しています。



令和3年11月28日、「洋光台誕生50周年式典」での集合写真です。来賓の皆様と一緒に。



毎月の定例会の様子。感染症対策は万全です。

洋光台地区の連長にインタビュー! 地域活動の魅力とは

「地域が活性化するためには、活動の拠点となる場所が必要」と語る。令和2年には、一つの区切りとなった洋光台北団地の交流拠点【団地の集会所OPEN RING】が完成した。一級建築士の資格をもち、長年地域のまちづくりに関わってきた。地域を束ねる連長としての立場から、単なる団地再生ではなく“地域を再生する”というストーリーをUR都市機構や行政と共有してきた。

「地域活動では、小さな問題ばかりを見て「やめよう」となってしまうのが一番いけない。常に大きな視点をもち、課題を包含するような形で物事を進めていくとうまくいく」と話す。

“洋光台で育った子どもたちがまた洋光台に帰ってきてほしい”という気持ちでまちづくりを進めている。

地域活動のきっかけ

当番でまわってくる自治会の役員で「体育部長」になったこと。1,000世帯をかかえる団地の運動会などの運営に関わり、そのまま自治会の体育指導委員(現在のスポーツ推進委員)を10年務めた。これ以上は…(笑)と思っただが、今度は自治会の役員として関わるようになり、現在に至る。



洋光台連合自治町内会会長
みかみ いさお
三上 勇夫氏

(広報よこはま磯子区版 令和3年6月号より編集)



洋光台 ようこうだい 連合自治町内会

令和3年度の活動

令和2年に、洋光台は誕生50周年を迎えました。50周年にあわせ、様々な行事を計画しておりましたが、新型コロナウイルスのために延期、中止になりました。今年、令和3年度に、遅ればせながら50周年式典が開催できました。コロナ禍での活動は難しいですが、皆で智恵を出し合い、僅かに再開できています。

洋光台50周年式典



洋光台誕生50周年式典：洋光台第一小学校にて

ハロウィンイベント



北団地芝生公園で仮装コンテスト、駅前公園でプレイパークを開催しました



コスモスミーティング



はまぎんこども宇宙科学館会議室と洋光台地域ケアプラザをオンラインでつなぎ、感染症下での地域活動について議論しました。

例年の活動

※令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により、中止したものがあります



防災訓練



洋光台ならではのキャンドルナイト